

に い だ
新 井 田 川 水 系
河 川 整 備 基 本 方 針
(案)

青 森 県
岩 手 県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 新井田川流域の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項	5

(参考) 新井田川水系流域図

巻末

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 新井田川流域の概要

新井田川は、その源を岩手県九戸郡山形村地先の多々良山（標高 970m）に発し、瀬月内川の名称で岩手県側を北流し、雪谷川と合流後、青森県に入り新井田川と名称を変え、古里川、頃巻川、松館川等の支川を合わせ、八戸市の湊地先で太平洋に注ぐ流域面積 585.4km²、流路延長 78.1km の二級河川である。

その流域は、青森県、岩手県の 2 市 3 町 1 村に及び、流域内人口は約 10 万人となっている。流域の気象は、年間降水量約 1,200mm、年平均気温は約 10℃である。

本水系の治水事業は、昭和 12 年に馬淵川の支川として改修が始められ、昭和 14 年から馬淵川放水路工事に着手し、昭和 31 年に現在のように馬淵川と分離した姿となった。新井田川の本格的な治水事業は、昭和 33 年 9 月洪水を契機として、昭和 37 年度から八戸市の河口より長館橋までの市街地区間約 5.4km について改修に着手した。改修途上の昭和 42 年 9 月の台風 27 号では浸水面積 515ha、浸水家屋 1,873 戸、昭和 44 年 8 月の台風 8 号では浸水面積 171ha、浸水家屋 965 戸と甚大な洪水被害を受けたことから、昭和 53 年度には中流部の風張・差波工区約 1.7 km、続いて昭和 56 年には南郷村の島守工区約 1.7 km を計画区間に取り込み、これまでに整備を終えている。また、上流部の岩手県内でも昭和 43 年から九戸村伊保内地区において約 3.3km の改修を実施している。

平成 11 年 10 月 27 日～28 日には、新井田川流域は未曾有の豪雨に見舞われ、既に改修済みとなっていた八戸市街地部を除く全域にわたって被害を受けた。特に青森県の南郷村、岩手県の軽米町、九戸村等では浸水面積 210ha（農地）、全半壊家屋 31 戸、浸水家屋約 710 戸、総被害額約 280 億円にのぼり、効果的な治水対策が早急に必要となっている。

また、昭和 8 年 3 月の三陸大津波、昭和 35 年 5 月のチリ地震津波、昭和 43 年 5 月の十勝沖地震津波では八戸市を中心に多大な被害を受けている。

新井田川本川における河川水の利用については、主に農業用水として約 1040ha の耕地を潤しているほか、水道用水及び工業用水として、八戸市及び軽米町で利用されている。

新井田川では、昭和 63 年、平成 6 年、9 年等、しばしば深刻な水不足に見舞われ、また、八戸市の人口集中化による水道水の需要増や八戸平原開拓に伴う新規かんがい用水の需要により、新たな水源の確保が必要となっている。

河川の水質については、「生活環境の保全に関する環境基準」で長館橋を境に上流部が A 類型、下流部が B 類型に指定されているが、過去 10 年ほどで改善が進み、現状の水質は BOD75%値がいずれも環境基準を満足している。

河川及び流域の環境は、流域の約 8 割は山地で占められており、山間地を流下する新井田川は、八戸市に至るまで溪谷や山間平野を繰り返し蛇行しながら流下する表情豊かな河川である。

流域の最上流部にはシラカバ林の群落も見られるが、概ねアカマツ群落を主体とした植相で覆われ、ニホンカモシカ、キツネ、テン等のほ乳類やヤマセミ、カワガラス等の多数の鳥類が生息している。穏やかな山地に囲まれた低地部を蛇行しながら流れる川沿いには耕地が広がり、集落が散在し、これらが一体化し、美しい里山の風景を呈している。河岸には、オニグルミ、ケヤキなどの河畔林が見られ、清流を好むイワナ、ヤマメ等の魚類やカルガモを初めとする多種多様な動物が生息している。沿川には豊かな自然環境を有したレクリエーション施設も数多くあり、灯籠流しやいかだ遊びが行われるなど、川に密接な風土が育まれている。

中流部には、丘陵状の山々に囲まれた島守盆地があり、川の周辺には人との関わりの長さを感じさせる是川遺跡などの数多くの遺跡が散在し、新井田川が「母なる川」と言われる所以ともなっている。島守盆地内では、川幅が広がり瀬や淵などが見られ、ウグイ、アユを初めとする数多くの魚類も生息し、釣りも盛んに行われている。上下流はともに溪谷状に刻まれ、中流部にあつて、奥深い山地を思わせる景観を呈しており、カワセミ、ハイタカなども見られる。

下流部は、平坦地で両岸に住宅や工場が広がり、新井田川公園沿いの堤防は桜づつみとして市民の憩いの場となっているほか、市民病院に隣接する堤内にはヘリポートを備えた防災ステーションも整備されている。河口部は川幅も広く、運河状となっており、多数の船舶の停泊地となっている。また、感潮区間である長館橋までの汽水域では、サケ、回遊性のウキゴリやマハゼ、海洋性のボラなどが見られる。

このように「母なる川」と言われてきた新井田川は、長い歴史の中で地域住民と密接な係わりを持つと同時に、景観やレクリエーション等を通じて愛着を持たれてきた河川であり、河川環境の保全や人と水とのふれあいの場の確保など河川利用に対する要請も年々高まっている。

これらのことから、洪水から流域住民の生命・財産を守る「治水」、広大な耕地と安定した水利用のできる「利水」、上流から下流へと様々な表情を見せる流域の自然、文化・歴史・風土を保全しつつ、うるおいと安らぎのある水辺空間を形成する「環境」のバランスのとれた河川整備を通して、安全で魅力ある生活空間の実現が望まれている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

新井田川における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川整備の現状、水害発生の実状、河川の利用の実況並びに河川環境の保全を考慮し、また、流域内の諸計画との整合を図り、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図ってゆく。

① 災害発生の防止又は軽減

洪水による災害発生の防止または被害の軽減に関しては、沿川地域を洪水から防御するため河道掘削による河積の増大、護岸の設置などにより計画規模の洪水を安全に流下させる。さらに、整備段階あるいは計画規模を上回る洪水に対しては、水位情報周知河川として特別警戒水位の設定やハザードマップ作成の支援を行い、関係機関と連携を図りながら、警戒避難体制・水防体制及び情報伝達体制等の整備等ソフト面の充実に努める。

② 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

河川水の適正な利用に関しては、既得かんがい用水等の利用を考慮し、河川環境との調和を図ることとする。下流の人口集中区域に、流水の正常な機能の維持に必要な流量の確保に努めるとともに、新たな水需要に対処するために水資源開発を図る。

③ 河川環境の整備と保全

河川環境の整備と保全に関しては、市街地から山里へと続く表情豊かな新井田川の特徴を踏まえ、地域住民が親しみやすい水辺を確保するとともに、水と緑が織りなす現在の良好な景観と動植物の多様な生育・生息環境の保全に努め、人と自然とが共生できる川づくりに努める。特に中上流部には、手つかずの自然が残されており、河岸にはツルヨシ等の草本やオニグルミ、ケヤキ等の樹林があり、清流を好むイワナ、ヤマメ等が生息する多様な自然環境の保全を図る。下流部は古くから港を中心として栄えてきた八戸市街地であることから、人々の憩いの場として地域と調和した安らぎと潤いのある環境の保全と整備を行う。

河川の維持管理に関しては、洪水調節施設や堤防、護岸をはじめとした河川管理施設の機能が発揮できるよう維持管理する。また、河川の特性と地域の風土、文化、歴史を踏まえ、流域の母なる川として「新井田川らしさ」を後世に伝えるため、河川に関する情報を幅広く提供することにより、河川と流域住民とのつながりや河川愛護の浸透並びに住民参加による河川管理を推進する。

以上を実施し、洪水から流域住民の生命・財産を守る「治水」、安定した水利用ができる「利水」、上流から下流へと様々な表情を見せる流域の自然や景観を保全するとともに、うるおいと安らぎを与える水辺空間を形成するなど「環境」とのバランスが図られた河川整備を行い、安全で魅力ある生活空間を実現する。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、流域の状況及び青森県、岩手県の県内他河川の計画規模とのバランスを総合的に考慮して、100年に1回程度の確率で発生する規模の洪水とする。

新井田川の基本高水のピーク流量は、昭和41年6月洪水、平成3年8月洪水等を主要な対象洪水として検討した結果、基準地点新井田橋地点において $1,810\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち洪水調節施設により $910\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、河道への配分流量を $900\text{m}^3/\text{s}$ とする。

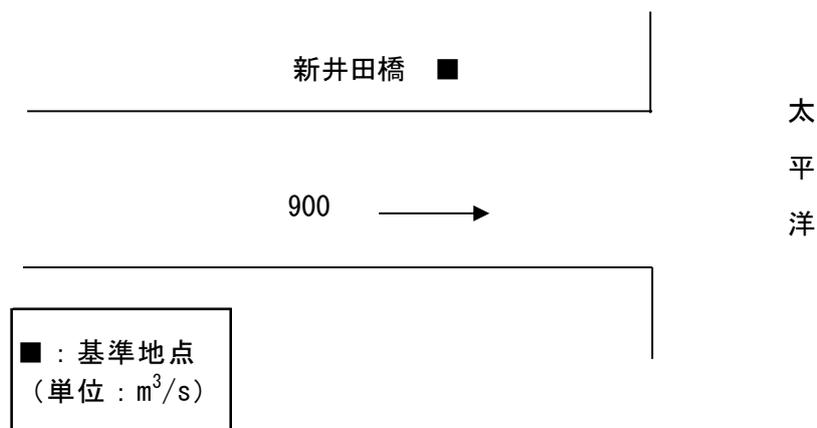
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位： m^3/s)

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設等による調節流量	河道への配分流量
新井田川	新井田橋	1,810	910	900

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、新井田橋地点において $900\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は、次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位、川幅一覧表

河川名	基準地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P. +m)	川幅 (m)
新井田川	新井田橋	4.3	4.31	92

注) T.P. : Tokyo Peil の略で、東京湾の平均潮位を基準として地表面の標高を表わしたもの

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、利水の現況、動植物の保護等を考慮し、概ね田中地点で $1.8\text{m}^3/\text{s}$ 、世増ダム地点で $2.4\text{m}^3/\text{s}$ とする。

なお、当該流量は、田中地点及び世増ダム地点下流の水利使用の変更に伴い増減するものである。

【新井田川水系流域図】

